

第66回 山陰眼科集談会

(日眼専門医制度生涯教育認定事業 No.59063)

プログラム

日時: 2022年5月15日(日)
13時00分~16時40分

場所: WEB開催(ZOOM)

会費: 参加費 2,000円
(コメディカル・学生等 無料)

- 特別講演終了後 Web 上での記念撮影を行いますので、撮影時には Web カメラを ON にしてください。

【大学院講義対象科目】

修士課程選択科目: 再生医学・組織工学(M13), 医療のための光工学の基礎(M29)
理工医学のための生物材料学の基礎(M33)
博士課程選択必修科目: 臨床医科学(D5)
博士課程選択科目: 老化Ⅱ(D20), 医療のための光工学(D99)
理工医学のための生物材料学(D103)

お問い合わせ先: 医学部眼科学講座(内線 2284)

島根県眼科医会
島根大学医学部眼科学講座

－開会のあいさつ(島根県眼科医会 高梨 泰至 会長)－

一般講演 I (13:05-14:17)

座長 原 克典 講師
(島根大学眼科学講座)

1. 新生児期に眼科診察を契機に発見された COL4A1/A2 遺伝子異常の一例
○杉原一暢¹, 兒玉達夫^{1,2}, 谷戸正樹¹
(1. 島根大学眼科学講座, 2. 島根大学医学部附属病院先端がん治療センター)
2. 若年者に対するロービジョンケアの 1 例
○川島萌里, 原 克典, 谷戸正樹(島根大学眼科学講座)
3. 単純ヘルペスウイルスとメチシリン耐性ブドウ球菌の混合感染による角膜炎の 1 例
○森山望¹, 春木智子¹, 清水由美子¹, 宮崎 大¹, 井上幸次²
(1. 鳥取大学視覚病態学, 2. 日野病院)
4. 実質型角膜ヘルペス治療中止後の涙液中サイトカインの経時推移と再発の関連
○春木智子¹, 岡本直記¹, 清水由美子¹, 宮崎 大¹, 井上幸次²
(1. 鳥取大学視覚病態学, 2. 日野病院)
5. オミデネパグイソプロピル点眼薬使用後に近視化をきたした一例
○市岡 昇, 石田晃子, 谷戸正樹(島根大学眼科学講座)
6. ハーラマン・ストライフ症候群の一例
○島田文香, 石田晃子, 高柳佑士, 谷戸正樹(島根大学眼科学講座)

一般講演Ⅱ (14:18-15:30)

座長 佐野 一矢 講師
(島根大学眼科学講座)

7. 白内障術後 60 年以上経過して発症した水晶体起因性続発緑内障の 1 例
○稲田耕大¹, 春木智子¹, 宮崎 大¹, 井上幸次²
(1. 鳥取大学視覚病態学, 2. 日野病院)
8. 線状スティッチ全周隅角画像を用いたマイクロフック線維柱帯切開術眼内法の術後
評価(縦断研究)
○松尾将人¹, 志賀敦仁², 福田洋貴¹, 谷戸正樹¹
(1. 島根大学眼科学講座, 2. 島根大学医学科 6 年)
9. 緑内障診療における Clinical inertia
○池田欣史, 藤原悦子, 松岡陽太郎(松江赤十字病院)
10. 皮膚カロテノイド量と Mini-Cog の関連
○高柳佑士^{1,2}, 佐々木淳一³, 加堂陽一³, 尾花明², 谷戸正樹¹
(1. 島根大学眼科学講座, 2. 聖隷浜松病院眼科, 3. 島根大学医学科 6 年)
11. 滲出型加齢黄斑変性に対してブロールシズマブを投与した症例の治療成績
○藤原裕丈(大田市ふじわら眼科クリニック)
12. 脈絡膜腫瘍に類似した ANCA 関連脈絡膜炎の 1 例
○馬場高志¹, 高梨菜穂¹, 宮崎 大¹, 船越泰作²
(1. 鳥取大学視覚病態学, 2. ふなこし眼科ペインクリニック)

-休憩(10分)-

特別講演 I (15:40-16:40)

座長 谷戸 正樹 教授
(島根大学眼科学講座)

必要なものを作りたい!
～ものづくり(研究開発)に携わり思うこと～

江内田 寛 先生
(佐賀大学医学部眼科学講座 教授)

眼科医としてある程度働いていると、ときに現存しないものがほしくなることがある。ところがあたらしいものを創出するのはなかなか大変で、同時に時間と資金のかかる大仕事となることが多い。かねてより医学領域における研究開発の形態の一つに橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)があるが、これは基礎研究の成果を臨床へとつなげるための工程を一体的に捉えた開発戦略と定義される。ところが実際にその橋を渡るのは大変で、最終的に医薬品や機器の承認をうけるまでには、インキュベーターなどの協力のもと様々な困難を乗り越えなければならない。特に医薬品開発の場合、研究開始から承認取得まで多くの期間と開発費を要し、成功確立も低い。さらに昨今の20年は国の施策で医学研究に関する多くの規制改革が行われた。そのような環境の中で、我々はこれまであたらしい薬剤や医療機器開発に取り組んできた。そのためうまく開発が成功するものもある一方で、殆どの場合はその開発過程で頓挫する。

本講演では今後是非若い先生方にもものづくり(研究開発)に取り組んでいただきたいと思うため、自身がこれまで開発に携わってきた医薬品や医療機器に関しいくつかの事例を示し、その経緯や問題点を論ずる。

記念撮影 (Web上で記念撮影を行います。WebカメラをONにしてください。)

—閉会のあいさつ(谷戸 正樹教授)—